第12回日本リーグ結果

〈男子〉湧永製薬 〈女子〉大崎電気 が優勝を飾る

第12回の日本リーグは、ソウル・オリンピック大会のアジア地区予選の関係で、1月30日から3月5日まで、男女6チームが1回総当りで行なう変則開催となったが、男子は湧永製薬が最終戦で大崎電気を降し、2年ぶり4回目の優勝。一方女子は、混戦の中から大崎電気が抜け出し、4勝1敗で2年ぶり3回目の優勝を飾った。（詳細については次号でお伝えします）

〈男子〉

	本田	湧永	大崎	日新	大同	トヨ自	勝	敗	分	勝点	同点間	得点/失点	差	順位
本田技研鈴鹿		× 17-25	○ 25-24	○ 22-21	× 10-21	○ 26-21	3	2		6		100/112	−12	2
湧永製薬	○ 25-17		○ 30-27	○ 26-21	○ 21-11	○ 33-16	5	0		10		135/ 92	＋43	1
大崎電気	× 24-25	× 27-30		○ 33-21	○ 26-23	○ 44-25	3	2		6		154/124	＋30	3
日新製鋼	× 21-22	× 21-26	× 21-33		○ 20-17	○ 22-19	2	3		4		105/117	−12	4
大同特殊鋼	○ 21-10	× 11-21	× 23-26	× 17-20		○ 30-15	2	3		4		102/ 92	−10	5
トヨタ自動車	× 21-26	× 16-33	× 25-44	× 19-22	× 15-30		0	5		0		96/155	−59	6

※勝点が同数のチームの順位は当該チーム間の対戦結果による。
上記にて決定しない場合は総得失点差による。

〈女子〉

	立石	大崎	ジャスコ	日立	ビクター	大和	勝	負	分	勝点	同点間	得点/失点	差	順位
立石電機山鹿		× 25-26	○ 30-17	○ 21-11	× 16-19	○ 18-14	3	2		6		110/ 87	＋23	3
大崎電気	○ 26-25		○ 30-16	○ 33-28	× 31-32	○ 30-27	4	1		8		150/128	＋22	1
ジャスコ	× 17-30	× 16-30		× 25-28	× 18-30	× 18-23	0	5		0		94/141	−47	6
日立栃木	× 11-21	× 28-33	○ 28-25		△ 28-28	× 19-22	1	3	1	3		114/129	−15	5
日本ビクター	○ 19-16	○ 32-31	○ 30-18	△ 28-28		× 20-25	3	1	1	7		129/118	＋11	2
大和銀行	× 14-18	× 27-30	○ 23-18	○ 22-19	○ 25-20		3	2		6		111/105	＋ 6	4

※勝点が同数のチームの順位は当該チーム間の対戦結果による。

第19回全日本実業団男子トーナメント大会

三陽商会が初優勝を飾る

第19回全日本実業団男子トーナメント大会は、2月5日から7日までの3日間、愛知県体育館に32チームが参加して行なわれた。

試合は、昨シーズンまで日本リーグ一部でがんばっていた三陽商会が圧倒的な強さをみせて勝ち進み、決勝戦で本田技研熊本を降し初優勝を飾った。

▼1回戦

三陽商会41〔23−10／18−6〕**16アイシン精機**

〔戦評〕前半、両チームとも固さが見られたが、そんな中で三陽は足を使って得点を重ねていった。後半に入り、三陽はセットにおいても上からのシュートがよく決まり始め、速攻も加え、得点差は広がっていった。

得	〔三陽〕		〔アイシン〕	得
0	宇田川	GK	垂見	0
0	吉田			
0	関	FP	横井	1
12	清家		矢野	0
0	田口		今野	1
1	砂川		中村	4
0	山口		隈元	0
8	浜田		廣田	0
12	実方		喜作田	7
2	河村		坂口	1
1	吉原		安井	2
5	大塚	〔審・日比、川合〕		
41	(1)	PT	(3)	16

新日鉄大分31〔21−5／10−12〕**17東京重機**

〔戦評〕はじめは新日鉄大分のペースで進んだが、ラスト10分あたりから東京重機のペースに変わり、前半は重機が2点をリードして終った。後半に入り、新日鉄のGK小森のがんばりでラスト20分で追いつき逆転、そのままムードに乗った新日鉄が逆転で勝利を握った。

得	〔大分〕		〔重機〕	得
0	財満	GK	長谷川	0
0	小森	FP	北村	0
3	牧		塩野	6
5	房前		河野	0
3	大杉		福地	1
3	麻生		吉田	3
0	安部		鷹野	6
10	南		海老原	1
1	得丸			
6	河野	〔審・松ヶ谷、夏目〕		
31	(1)	PT	(0)	17

住友金属和歌山25〔16−13／9−8〕**21日本ガイシ**

〔戦評〕立ち上がり両チームに固さがあったが、住友のロングシュートが決まり始め、ゲームをリードして展開。日本ガイシも清水のシュートで反撃、接戦で前半を終了。後半、日本ガイシも清水を中心によく追ったが追いつかず、住友が逃げ切った。

得	〔住金〕		〔ガイシ〕	得
0	相坂	GK	野本	0
1	魚住	FP	本山	1
0	楢崎		清水	8
1	山崎		江口	0
0	河野		喜多	5
7	岡		岩田	7
3	西岡		西脇	0
4	寺西		山守	0
5	古田		柘植	0
4	岡田	〔審・日比、川合〕	磯山	0
25	(2)	PT	(2)	21

日鉄建材34〔20−6／14−6〕**12興亜石油**

〔戦評〕前半、再三ノーマークシュートをはずし、なかなかエンジンのかからない日鉄建材に対し、ケレン味のない攻めとGKの巧守で対抗する興亜石油。出だしは互角の展開を見せたが、次第に地力に勝る日鉄が相手ミスをついて引き離した。

得	〔日鉄〕		〔興亜〕	得
0	蓑輪	GK	松本	0
0	川上			
0	霜村	FP	藤田	4
6	杉本		中本	1
9	山口		長野	1
4	池辺		松本	2
6	上山		高林	3
5	外山		松本	1
2	若本		中村	0
2	玉嶋		重田	0
			伊藤	0
		〔審・細沢、久保田〕	大山	0
34	(0)	PT	(0)	12

豊田自動織機33〔15−2／18−5〕**7自衛隊勝田**

〔戦評〕立ち上がりから多彩な攻撃で得点を重ねる織機に対し、自衛隊勝田は小さなミスが目立ち、点差があっという間に広がった。その後も半速攻で得点を重ねる織

得	〔自織〕		〔勝田〕	得
0	中村	GK	山口	0
0	柴田			
7	蟹江	FP	高岡	3
5	奥畑		大和田	0
0	古田		市川	0
4	諌山		高橋	2
0	大城		穂坂	1
7	前川		石川	1
3	笹瀬		富永	0
7	山内	〔審・松ヶ谷、夏目〕		
33	(2)	PT	(0)	7

機に対し、勝田は前半は5点、後半は疲れが目立ち2点をあげるのがやっとだった。

日本発条 23（11—9、12—8）**17 北陸電力**

〔戦評〕日本発条のロングが前半よく決まりリードしていたが、北陸電力も速攻が決まりだして一時は1点差まで追い上げた。
　後半も4点差を追って北陸電力がスピード豊かな攻撃を見せたが、日本発条が逃げ切った。

得	〔発条〕		〔北陸〕	得
0	清水	GK	熊本	0
			竹内	0
3	佐々木	FP	小原	0
4	藤野		近葉	1
4	井上		澤田	0
7	呉座		稲木	3
0	石塚		田中	4
0	手島		三田	1
0	山田		吉田	1
3	辻本		稲崎	0
2	井上		川上	7
			前田	0
		（審・加藤 工藤）		
23	(3)	PT	(0)	17

豊田合成 36（18—11、18—6）**17 日本鋼管福山**

〔戦評〕前半は、豊田合成ムードで終ったが、日本鋼管福山の林のガッツあるポストプレーが目についた。後半も豊田合成のペースで、大差で勝負がついた。

得	〔合成〕		〔鋼管〕	得
0	則武	GK	辺見	0
0	梅村			
3	花井	FP	岡崎	3
8	渡辺		小松	0
4	畠中		篠田	5
2	吉田		金井	3
1	真島		西郷	2
0	横山		松村	0
2	牧田		林	2
5	小林		藤島	2
5	上條			
6	樫本			
		（審・久保田 細沢）		
36	(3)	PT	(2)	17

本田技研爽風会 41（22—4、19—4）**8 関東自動車工業**

〔戦評〕前半10分までは、本田爽風会にシュートミスが目立ち、関東自工の善戦が期待されたが、10分過ぎからはロングシュート、サイドシュート、速攻とすべての点で勝る爽風会が徐々に点差を広げ出足の鋭いディフェンスで関東自工にシュートチャンスも与えないワンサイドゲームであった。

得	〔爽風会〕		〔関東〕	得
0	高木	GK	小川	0
0	岡本		糸永	0
3	小池	FP	黒崎	0
2	香西		増井	1
8	山野		山口	3
6	平松		高田	1
4	東		小手川	2
0	坂本		安沢	0
7	山口		塚本	1
2	松下			
9	弥吉			
0	玉井			
		（審・加藤 工藤）		
41	(4)	PT	(0)	8

本田技研熊本 47（24—7、23—3）**10 ワールド**

〔戦評〕初出場のワールドのがんばりも本田技研熊本の速い展開に圧倒され、前半15分で勝負は決まった。後半も本田の速攻の手は緩まず大差となったが、ワールドも点差に関係なく力一杯がんばった姿勢に好感がもてた。

得	〔熊本〕		〔ワールド〕	得
0	中尾	GK	平野	0
0	坂本			
4	長野	FP	坂根	1
2	佐伯		筏	3
2	長野		池内	0
4	荒田		井尻	1
3	三代		市川	1
5	松村		松本	0
3	矢野		中村	0
6	田中		山根	3
7	山口		北村	1
11	川崎		近藤	0
		（審・庄司 越田）		
47	(4)	PT	(2)	10

金沢市役所 24（13—7、11—8）**15 自衛隊久里浜**

〔戦評〕両者とも固さの見られる出だしとなったが、2—4ディフェンスとシュートチャンスを確実に決めて金沢市役所が、前半15分までに7—1と大きくリードした。しかし、残り10分でエンジンのかかった自衛隊久里浜が追い上げムードとなり前半を終了。後半も確実なシュートとまとまりの良いディフェンスで追い上げムードをふり切った金沢市役所が試合を決めた。

得	〔金沢〕		〔久里浜〕	得
0	竹中	GK	下平	0
0	藤井			
3	池村	FP	渡辺	0
0	金森		中根	0
2	中納		川鎌	0
5	橋本		黒木	1
1	中村		友利	6
9	西田		永谷	0
0	西山		白坂	2
0	倉		黒木	6
3	垣内		管野	0
1	八日市屋		梅田	0
		（審・杉山 若田）		
24	(5)	PT	(2)	15

日本電装 32（17—12、15—8）**20 コスモ石油**

〔戦評〕前半、攻守に勝る日本電装が15—8とリードしたが、再三のチャンスにシュートミスが目立った。コスモはシュートがいずれも単発で、リズムに乗れなかった。後半コスモは山本らのシュートで追い上げを見せたが、着実に加点した電装が前半のリードをさらに広げ快勝した。

得	〔電装〕		〔コスモ〕	得
0	森	GK	谷口	
0	神戸		福本	
5	杉村	FP	善岡	2
3	川路		松田	0
1	藤崎		北畑	6
7	久本		高橋	0
2	前田		川端	4
4	大田		八木	1
3	岡崎		松井	0
3	樋口		柳原	0
3	難波		山本	7
1	近藤		星野	0
		（審・杉本 中森）		
32	(3)	PT	(0)	20

大阪ガス 35（19—11、16—9）**20 徳山曹達**

〔戦評〕前半は、大阪ガス長田、水谷、藤田を中心に試合を引っ張った。一方徳山曹達も中村を軸に大阪ガスのスキを狙い、前半15分まで五分五分の好ゲームで前半を終了した。後半も前半のペースで球離れ、コンビの合った大阪ガスがふり切り、1回戦をものにした。

得	〔ガス〕		〔曹達〕	得
0	福田	GK	藤井	0
			村上	0
5	奥野	FP	中村	1
0	竹志		藤村	6
0	藤井		井上	2
4	中村		中村	0
10	長田		重永	8
10	水谷		東	0
3	田坂		福田	2
3	藤田		竹田津	1
0	新家谷		手島	0
		（審・庄司 越田）		
35	(3)	PT	(1)	20

竹芝精巧 19 〔8―8 / 11―9〕 17 自衛隊呉

〔戦評〕両チームともスピードのある攻撃をしながらもGKの好守に阻まれ、ロースコアで前半を折り返した。後半も両GKの好守により一進一退をくり返したが、20分過ぎに連続得点をした竹芝精巧が辛くも逃げ切った。

	竹芝	得	呉	得
GK	小幡	0	一二	0
	馬場	0	須堯	0
FP	松本	5	山先	0
	三幸	6	寿賀	1
	桐木	0	塩見	2
	森口	1	小谷	8
	三本	6	岡田	0
	今村	1	利光	0
	百合野	0	山根	3
			瀬戸	3
PT	19	(3)	17	(2)

（審・清水、大鐘）

新日鉄名古屋 23 〔6―10 / 17―10〕 20 出光興産

〔戦評〕前半の立ち上がり、両チームともミスが目立ったのだが、新日鉄のミスを出光興産がうまく得点に結びつけ、10―6でリードし前半を折り返した。後半残り4分で新日鉄が同点に追いつき、出光のミスをうまくポイントに結びつけ逆転勝ちした。

	名古屋	得	出光	得
GK	岩上	0	久村	0
	浜田	0	池永	0
FP	平野	3	千葉	0
	土屋	5	保原	0
	清水	1	赤羽	3
	大島	4	田中	2
	堀喜	6	佐々木	0
	渡辺	0	永石	6
	各務	1	清村	1
	阿久根	0	重永	0
	伊藤	3	鶴岡	2
			大木	6
PT	23	(2)	20	(3)

（審・若田、杉山）

神戸製鋼所 22 〔8―11 / 14―10〕 21 三井石化千葉

〔戦評〕前半、両チームともミスが目立ち、10分過ぎまで2―2。ここから三井が中村の連続得点などで早い試合展開となり前半を終了。後半に入り、ようやく動きの良くなった神戸が、足を使った攻撃でジリジリと追い上げ、残り5分に20―19と逆転に成功、そのまま食い下がる三井を振り切った。

	神鋼	得	三井	得
GK	中尾	0	佐藤	0
	宮永	0		
FP	江口	1	田中	0
	笹野	1	坂本	0
	渡辺	4	森重	5
	藤谷	1	岡村	0
	石橋	8	相田	2
	河内	3	中村	7
	山崎	4	三村	4
	佐伯	0	円東	0
			貫船	3
PT	22	(0)	21	(2)

（審・杉本、中森）

セントラル自動車 37 〔17―3 / 20―14〕 17 日本耐酸壜

	セント	得	耐酸壜	得
GK	佐藤	0	岩田	0
	寿田	0	足立	0
FP	筌場	1	吉安	0
	瀬戸	2	小林	5
	藤野	3	西脇	0
	尾形	5	玉田	3
	海老原	8	五島	1
	守谷	7	野村	4
	貴般	1	古田	3
	中村	1	木村	1
	千葉	8		
	佐藤	1		
PT	37	(0)	17	(2)

（審・大鐘、清水）

〔戦評〕日本耐酸壜の各選手は、シュート1歩前のパスでミスが出てあまり得点できなかった。

セントラル自動車は、速攻、コンビプレーにより着実に加点し、日本耐酸壜に圧勝した。

▼2回戦

三陽商会 35 〔16―6 / 19―8〕 14 新日鉄大分

〔戦評〕前半開始直後は、お互いペースがつかめなかったが、時間が進むにつれ三陽がペースをつかみ、実方のロングシュートなど多彩な攻撃で得点を重ねた。後半に入って、新日鉄も開始早々反撃したが、三陽は全員がよく動き、終始ペースをつかみ圧勝した。

	三陽	得	大分	得
GK	宇田川	0	財満	0
	吉田	0	伊東	0
FP	関	0	小森	0
	清家	11	牧	2
	田口	0	房前	1
	砂川	1	大杉	1
	山口	4	麻生	4
	浜田	6	安部	0
	実方	6	南	2
	安藤	2	得丸	1
	河村	2	河野	3
	大塚	2	伊東	0
PT	34	(1)	14	(2)

（審・越田、庄司）

日鉄建材 38 〔19―8 / 19―8〕 16 住友金属和歌山

〔戦評〕前半は速い攻めと上山のミドルシュートによって日鉄建材は着実に加点していった。一方の住金和歌山は、日鉄建材の堅い守りに阻まれて苦しい立ち上がり。後半も、日鉄は相手のミスからの速攻を充分に生かし、山口のロングも冴えて着々加点。住金も善戦を見せたが、攻守ともに力の勝る日鉄が押し切った。

	日鉄	得	住金	得
GK	蓑輪	0	相坂	0
	川上	0		
FP	霜村	0	魚住	0
	杉本	5	檜崎	0
	山口	8	山崎	1
	池辺	3	河野	3
	上山	9	岡	1
	外山	5	西岡	2
	古川	4	寺西	5
	若本	2	大里	0
	玉嶋	2	古田	4
			岡田	0
PT	38	(1)	16	(1)

（審・杉本、中森）

豊田自動織機 17 〔8―6 / 9―5〕 11 日本発条

〔戦評〕双方とも攻め手を欠き、得点できず、10分経過して3―3。その後日本発条のミスからの半速攻により織機が2点リードして前半終了。

後半に入り、セットプレーで得点する日本発条だが、ラインクロスなどミスを重ね、織機に速攻のチャンスを与え、結局17―11で織機が勝利した。

	自織	得	発条	得
GK	中村	0		
	柴田	0	清水	0
FP	蟹江	3	佐々木	0
	奥畑	3	藤野	2
	古田	1	井上	3
	諫山	0	呉座	5
	大城	0	石塚	0
	前川	3	手島	0
	笹嶺	2	山田	0
	山内	5	辻本	1
			井上	0
PT	17	(1)	11	(1)

（審・夏目、松ヶ谷）

本田技研爽風会 27 （16―10・11―7） 17 豊田合成

〔戦評〕前半、本田爽風会がシュートミスを犯しながらも早いプレーで豊田合成を4点リードした。
後半は、爽風会の速攻が決まり始め、豊田の方もボール回しにリズムが出てきた。しかし、20分から両チームに退場者が出て荒れたゲームとなってしまった。

	〔合成〕	得
GK	則武	0
	梅村	0
FP	花井	1
	渡辺	0
	畠中	0
	片岡	1
	吉田	0
	真島	0
	牧田	2
	小林	1
	上條	6
	樫木	6
PT	(1)	17

（審・日比・川合）

	〔爽風会〕	得
GK	高木	0
	岡本	0
FP	小池	3
	香西	2
	山野	4
	平松	7
	東	3
	山下	8
	松下	0
	弥吉	0
	玉井	0
PT	(2)	27

本田技研熊本 28 （14―10・14―9） 19 金沢市役所

〔戦評〕両チーム、スピードのある果敢なプレーで点の取り合いで展開されたが、前半の終了間際から得点力に勝る本田技研熊本が引き離し始めた。一方、金沢市役所も速攻やサイドからの攻めなどすばやい攻めで食い下がったが及ばなかった。

	〔金沢〕	得
GK	竹中	0
	藤井	0
FP	池村	1
	金森	0
	中納	0
	橋本	6
	酒井	4
	中村	0
	西田	7
	西山	0
	倉	0
	垣内	1
PT	(1)	19

（審・工藤・加藤）

	〔熊本〕	得
GK	中尾	0
	坂本	0
FP	長野	8
	佐伯	2
	長野	2
	荒田	3
	三代	1
	松村	2
	矢野	1
	田中	2
	山口	3
	川崎	4
PT	(3)	28

日本電装 23 （10―12・13―9） 21 大阪ガス

〔戦評〕立ち上がりは日本電装の動きが良く、大西ガスの方はいまいちであった。しかし、両チームともGKが良く、点差はあまり開かなかった。
後半も相変らずレベルの高い試合だったが、電装が徐々に45度シュートを決め始め、GKの好キープと相まって電装が23―21で勝利を収めた。

	〔ガス〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	3
	竹志	0
	藤井	0
	大西	0
	中村	4
	長田	5
	水谷	2
	田坂	4
	藤田	3
PT	(2)	21

（審・細沢・久保田）

	〔電装〕	得
GK	森	0
	神戸	0
FP	杉村	6
	川路	1
	久本	4
	前田	0
	大田	2
	岡崎	5
	樋口	0
	難波	2
	西木戸	3
	近藤	0
PT	(2)	23

竹芝精巧 29 （12―17・17―7） 24 新日鉄名古屋

〔戦評〕はじめ両チームともミスが目立ったが、途中から竹芝がシュートを決め出し、引き離して前半を終った。後半、新日鉄もシュートが決まり出して追い上げたが、あと少しのところで追いつけなかった。

	〔名古屋〕	得
GK	岩上	0
	浜田	0
FP	平野	4
	土屋	2
	清水	2
	大島	4
	堀	9
	渡辺	0
	各務	1
	阿久根	0
	伊藤	2
PT	(0)	24

（審・清水・大鐘）

	〔竹芝〕	得
GK	小幡	0
	馬場	0
FP	松本	6
	三幸	6
	桐木	9
	森口	1
	三本	1
	今村	5
	百合野	1
PT	(1)	29

セントラル自動車 34 （16―6・18―5） 11 神戸製鋼所

〔戦評〕終始スピードに上回るセントラル自動車のペースで試合がつづく。神戸製鋼・石橋のロングシュートで反撃をかけるが及ばなかった。

	〔神鋼〕	得
GK	中尾	0
	宮永	0
FP	江口	2
	笹野	2
	渡辺	0
	藤谷	0
	石橋	3
	河内	1
	山崎	3
	佐伯	0
PT	(1)	11

（審・若田・杉山）

	〔セント〕	得
GK	佐藤	0
	寿田	0
FP	筌場	3
	瀬戸	6
	藤野	4
	尾形	2
	海老原	5
	守谷	4
	貫船	0
	中村	2
	千葉	6
	佐藤	2
PT	(1)	34

▼3回戦

三陽商会 38 （17―10・21―10） 20 日鉄建材

〔戦評〕前半中盤までは一進一退の攻防をくり返したが、中盤を過ぎると三陽がペースをつかみ、砂川の速攻などで大きく差を開いた。後半に入ると、三陽の攻撃が単調になりがちであったが、総合力で勝る三陽の大勝であった。

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	6
	山口	4
	池辺	4
	上山	2
	外山	2
	古川	0
	若本	2
	玉嶋	0
PT	(3)	20

（審・松ヶ谷・夏目）

	〔三陽〕	得
GK	宇田川	0
	吉田	0
FP	清家	5
	田口	1
	砂川	5
	山口	3
	浜田	5
	実方	8
	安藤	0
	河井	3
	吉原	1
	大塚	7
PT	(7)	30

本田技研爽風会 30 （19―8・11―13） 21 豊田自動織機

〔戦評〕序盤戦で2点差をつけた織機を追う形となった爽風会。双方譲らず13―11の2点差のまま前半終了。後半に入り、織機のシュートミスからの速攻で得点を重ねた爽風会は、7分に15―14と逆転。その後もリズムに乗り、セット、速攻も冴え、30―21で勝利。

	〔織機〕	得
GK	中村	0
	柴田	0
FP	蟹江	6
	奥畑	6
	古田	0
	諌山	0
	大城	1
	前川	4
	笹嶺	0
	山内	4
PT	(1)	21

（審・杉本・日比）

	〔爽風会〕	得
GK	三宅	0
	岡本	0
FP	小池	4
	香西	2
	山野	4
	平松	7
	東	3
	山下	7
	松下	0
	弥吉	3
	玉井	0
PT	(3)	30

本田技研熊本 41 （21―12・20―9） 21 日本電装

〔戦評〕前半の日本電装はシュートミスが目立った。それに比べる

と、本田技研熊本は、シュートを確実に決め、そこで勝敗が決した。

〔電装〕得	〔電装〕		〔熊本〕	〔熊本〕得
0	森	GK	中尾	0
0	神戸		坂本	0
3	杉村	FP	長野	11
0	川路		佐伯	1
4	久本		長野	4
0	前田		荒田	5
4	大田		三代	5
1	岡崎		松村	4
5	樋口		矢野	2
1	難波		田中	4
1	西木戸		山口	2
2	近藤		川崎	3
21	(4)	PT	(2)	41

（審・細沢、久保田）

竹芝精巧 25〔9−10, 16−11〕21 セントラル自動車

〔戦評〕前半10分まで両チーム3点というスローなスタート。セントラル・千葉、海老原のロングヒッターを中心とした大味な攻撃に対して竹芝精巧は三幸、桐木らの積極的なプレーでそれに食いついていった。後半に入り、竹芝の着実な得点に対し、セントラルは竹芝の好ディフェンスに得点をあげられずに敗退した。

〔セント〕得	〔セント〕		〔竹芝〕	〔竹芝〕得
0	佐藤	GK	小幡	0
0	寿田		馬場	0
2	笠場	FP	松本	6
0	瀬戸		三幸	5
0	藤野		桐木	9
2	尾形		森口	0
9	海老原		三本	1
4	守谷		今村	3
0	貫船		百合野	1
0	中村			
4	千葉			
0	佐藤			
21	(4)	PT	(2)	25

（審・清水、大鐘）

▼準決勝

三陽商会 35〔15−9, 20−9〕18 本田技研爽風会

〔戦評〕両チームとも堅い守りのためセットプレーで点が取れず、三陽の速攻と爽風会のサイドシュートだけが目立った。爽風会は、三陽の1・5ディフェンスが崩せず、ロングの決めてがなかった。三陽は相手のシュートミスからの速攻でつなぎ、点数をあげていた。

後半は、爽風会のディフェンスが崩れ、三陽は速攻、ポスト、ロングなど多彩なプレーを使い、そのまま逃げ切った。

〔爽風会〕得	〔爽風会〕		〔三陽〕	〔三陽〕得
0	三宅	GK	宇田川	0
0	岡本		吉田	0
5	小池	FP	関	2
0	香西		清家	5
2	山野		田口	0
1	平松		砂川	2
2	東		山口	7
7	山下		浜田	7
1	松下		実方	4
0	弥吉		河村	1
			吉原	1
			大塚	6
18	(0)	PT	(2)	35

（審・細沢、久保田）

本田技研熊本 36〔18−14, 18−9〕23 竹芝精巧

〔戦評〕前半は開始から両GKの好守もあり1点を争う好ゲームを展開したが、20分を過ぎると竹芝精巧のミスが目立つようになり、点差が離れていった。後半開始早々、本田技研熊本は速攻をよく出し、一気に点差を開く。その後も疲れの見える竹芝に対し最後まで足が止まらなかった本田熊本が余裕をもって勝利を飾った。

〔竹芝〕得	〔竹芝〕		〔熊本〕	〔熊本〕得
0	小幡	GK	中尾	0
0	馬場		坂本	0
1	松本	FP	長野	8
8	三幸		佐伯	2
6	桐木		長野	6
1	森口		荒田	8
1	三本		三代	2
6	今村		松村	1
0	百合野		矢野	0
			田中	1
			山口	4
			川崎	4
23	(2)	PT	(1)	36

（審・清水、大鐘）

3位決定戦

竹芝精巧 25〔11−12, 14−12〕24 本田技研爽風会

〔戦評〕立ち上がり、竹芝はポストシュートで得点を重ねていったのに対し、爽風会はロングシュートで対抗し接戦となる。前半は互いにチームの持ち味を出し合ったすばらしいゲームが展開された。

後半開始早々、爽風会は2点を連取しペースに乗るかと思われたが、竹芝も速攻、ポストなどで必死に食い下がる。後半中盤、竹芝は爽風会のミスや反則につけ込みPTやポストで得点をあげ、リードする。終了直前、残り2秒で竹芝はエース今村のフリースローにて勝負が決まった。

〔爽風会〕得	〔爽風会〕		〔竹芝〕	〔竹芝〕得
0	三宅	GK	小幡	0
0	岡本		馬場	0
2	小池	FP	松本	4
1	香西		三幸	8
5	山野		桐木	4
7	平松		森口	0
2	東		三本	2
6	山下		今村	6
0	松下		百合野	1
1	弥吉			
24	(5)	PT	(5)	25

（審・杉本、日比）

▼決勝

三陽商会 27〔13−10, 14−8〕18 本田技研熊本

〔戦評〕立ち上がり三陽がリードしたが、本田もすぐに追いつき、その後は本田がやや押し気味に試合を進めた。しかし、前半終了間際に本田はミスを連続し、逆に三陽が3点のリードを奪って前半を折り返した。

後半立ち上がり、本田は一気に1点差まで詰め寄ったが、三陽のGK宇田川の好守にミスを連発し三陽の速攻にあい点差を広げられそのまま押し切られた。

〔熊本〕得	〔熊本〕		〔三陽〕	〔三陽〕得
0	中尾	GK	宇田川	0
0	坂本		吉田	0
8	長野	FP	関	0
0	佐伯		清家	8
5	長野		田口	0
0	荒田		砂川	5
0	三代		山口	4
0	松村		浜田	5
0	矢野		実方	3
1	田中		安藤	0
2	山口		河村	0
2	川崎		大塚	2
18	(4)	PT	(4)	27

（審・夏目、松ヶ谷）

ストラスブール
レフェリーシンポジウム報告

光島　磯雄

「現在提起されているレフェリー批判についての問題点Ⅰ」

ヴェルナーフィック
（IHF PRC理事）

このようなシンポジウムでトレーナーとレフェリーエキスパートという拮抗的グループ関係で両者同等に満足するような結論を得ることは、はなはだむつかしいことである。とはいうものの、IHFの規則審判委員会の考え方は、両者の間の各論にわたる討議はぜひとも必要と考えている。

現在、予定されているIHF大会に吹笛候補者となっているレフエリーを助けるための情報をコーチ諸氏にも届けるべきであると考える。我々としては、この短いシンポジウム期間で、共通の話題であるレフェリー非難論議については、毎試合終了後レフェリーにも同席させた上で可能な限りルール解釈で個々の見解を制限限定するように運びたいと努力しているつもりである。

我々は今回実施されるIHFシンポジウムで、トレーナーとの討議を通じてハンドボール競技の理念についての見解調整と、そのこと自体がルールに合致することを実現したいと念じている。

最も重視されている目的としては、それぞれの状態に応じた一致性ある判定に賛同してもらうことである。いずれかの試合状況の中で、しばしば起こるトレーナーによるまちがった、またはかたよった不規則な判断は、そのチームが攻撃中か防御中かによって異なった様相を示すものである。損害を与えるにせよ、受けるにせよ、それぞれ異なった判定がくだされることは、やむをえないことである。そこで私の願うことは、すべての討論がこの両者によって無条件で行われるとともに、レフェリーサイドにも望まれる平衡的感覚による判定に到達することである。レフェリーにとって、彼らの決定の大半を支配するものは「ルール8と17における相手に対する動作との罰則について」である。

常に基本的な問題の出発点となることは、段階的罰則適用をいつはじめたらよいか？　ということである。

規則違反のうちで大多数は「相手に対する動作」の条項の中に網羅されている。それは「フリースローによるか」「明らかな得点チャンスであれば、7mスローを判定しなければならない」これらはくり返し行われる攻防の中でチームのボール保持を保障するためのフリースロー反則判定という性格の反則である。これと対照的に、8－13における相手に対する動作は段階的に罰せられることになる。（17－16、17－36）ここでは主としてあきらかな規則違反、すなわち、つかまえる、抱きつく、突きとばす、突きあたる。足を出す、叩くなどして相手を防ぐことである。上記のことから8－14が粗暴な行為として罰する対象となり直接失格となり、8－15では追放につながる暴力行為となる。この2項目にあたる行為は、幸いにしてさほど頻繁に発生していない。だからこの件についてのチーム内の学習過程は一応肯定的な結果をもたらしているといえる。これらの単なるフリースローまたはそれによる保持の交代になるという反則と追加的に段階的に罰をくだすことについては目下討議中である。このことについては、私自身では灰色状態とみている。すべてのホールディングやプッシングが、必ず段階的に罰することが適当であるとは決めつけられないからである。

抽象的概念的に表現する形で、以下にいくつかの例をあげてみることにする。この灰色状況の中には多くの途中停車ともいうべき段階がある。相互の身体接触が起こるそれぞれの動きの方向過程とその速さの点で個別に観察し判断することは極めて困難である。厳しいにせよ、ゆるやかにせよ、極端な罰則適用基準を作り出さないようにと考えて、我々はレフェリーに対して灰色状態に相当する行為については試合開始後10～15分間ぐらいは比較的寛容（ふとっぱら）に取り扱うようにとすすめたい。反則のうち行為的に厳しい（荒さ、強さ）ものの40～60％は、この段階的罰則適用の可否を問われるものであり、うたがわしいときはプレイヤーの有利なように判定するべきである。この基準条件についてもっと厳密に言うとすれば、レフェリーは各種多様な指示、注意を活用し、吹笛においては、その吹き方の変化性であり、立居振舞いの点では身振りや表情の演技であり、そして言葉による指示を明瞭にプレイヤーに知らせることであり、そうすることによってフリースローと追加的段階罰則適用の区別を示すべきである。これらの過程により、試合のはじめの10～15分間のレフェリーの寛大な判定態度から、両チームがレフェリーの判定基準の限界がどこかにあるかをさとらせる時間的余裕が与えられることになる。

我々はトレーナーやチームが常にレフェリーの出身がどこの大陸なのか、国籍はどこかなどと事前に情報を入手しようと神経を使うことのないようになることを考えている。国内的な交流では、この順応過程は十分な豊富な予備知識によりほとんどゼロに近いくらい縮小している。レフェリーとの対話とその結果の現実性により、我々は非常に多種多様の問題やルール解釈面での国内的な特徴の存在を認めざるをえない。レフェリーサイドの視点からは、この種の状況の発生することは「トレーナーサイドと似たようなものである。彼らの持っている個々のプレイヤーやチームについての予備知識がゲーム運行の出来不出来について

の評価に影響をあたえるとともに、それによってさしせまった紛糾に対して既座の断固たる処置をとることに有意義なものとなる」。

再度強調するが、順応過程ははじめの10～15分間にレフェリーとトレーナーの間で極端な攻撃的な不和紛糾状態にならぬように成し遂げるべきである。

他の言葉で表現するならば、段階的罰則適用判定の限界線認定はあくまでもチーム自身のためであることが明らかでなければならない！

レフェリーにはすべてを黙認し、やりっぱなしにまかせるとか、それによって不正でアンフェアなゲーム態度のプレー方法がまたぞう引き起こされているなどは要求されていないし、また退場を多くとるレフェリーがよりよい出来ばえであるとの考えにも賛成出来ない。我々がレフェリーに望むこととしてレフェリー自身がその人格権威からあらわされる力量をそなえると共に試合をしているチームに対して評価範囲を明らかに示し、それによってゲームそのものを、しっかりと把握することである。

段階的に上昇加重する罰則適用という便利な方法を改めて勧奨する以上はぜひ利用活用すべきである。つまりこれは警告手段を有効に活用することである。緊張心で連続順序を考えるより、気分を鎮めるとともに60分間にわたってよりよい罰則適用態勢を作りあげる手段とすべきである。

段階的罰則適用との関連で、シュート動作の前とシュート時の段階罰が当然の反規については、実行すべきであり、その後反則については、アドバンテージルール活用を実行すべきであり、その後反則をおかしたプレイヤーを罰することが付随するように勧告する。

同様の表現であるがレフェリーがアドバンテージ解釈をするについては、防御則に段階罰相当の行為があってもゲーム中の状況に応じたゴールへのシュートするときとの関連で判断して行うことが適当である。ボール保持ということが段階罰の適用を遅くする理由ではなく、むしろ得点チャンスであるからどうかということである！

レフェリーはシュートの後にこそ特別の着眼点を持つべきである。ゴールエリアライン付近ではシュートのときに頻繁にアンフェアーな現象が起こるものである。レフェリーの視点――この場合は、センターレフェリー――はボールを早く追いすぎる傾向がある。

それでレフェリーは、次のようなアンフェアーな出来事をみのがすことになりがちである。

(a)　防御側プレイヤーの行為でシュートが終った後でもシューターをつきたおすとか
(b)　シューターの行為で彼がシュートした腕を防御側につきあてる。

両方とも反則となる行為であるとともに負傷をまねくおそれがあり、レフェリーによる別格の観察が求められることである。この機会に、私はルール8～9について注意を喚起したい。

「GKを危険にさらすことは禁じられる」我々はプレイヤーの健康（安全保持）が最も重要と見るとともに、プレイヤーは当然適正に行動すべきであると考えている。残念ながらこの頃一層ひどくなりつつある。なりふりかまわぬ形でのGKに対する行為はすべてみのがさぬようにしなければならない。適当な例はゴールエリア上へのとび込み、または走り込みなどである。走って突きあたる、突きとばす、ジャンプして突きあたるなどすべて負傷の危険をはらんだ行為である。

トレーナー諸氏に望むこととして、より高度の配慮が得られるようにするためプレイヤーに対してGKをルールに反して危険におとし入れる行為を実演してみせるようにしてもらいたい。我々がアンフェアープレーをやめさせるべく段階罰適用を問題にしているのは、攻撃側の反則への警告を特別に強調するにしてもそれは同時同等の解釈で行うべきと考えるからである。攻撃側の反則が適正に罰せられないことになれば、ルールに適合した防御活動を行うことは不可能となる。ルールでは攻撃側と防御側両者の立場やチャンスを対等、公平に考えて処置するように基本づけられている。もし我々が攻撃側反則に関心・考慮をはらわぬこととなれば、そこにはもはや防御側にとってアンフェアーな対応による方法しか残されていないことになるであろう。フェアーに防御しようとしているチームにとっては、攻撃側の反則を適切にみるしフェリーによるバックアップが必要なのである。

私としては全般的にみて、明らかに識別可能の攻撃側の反則、それも戦術的特色も目的も格別のものがみられないような6人対6人状態のときに起こるものは現在ここで扱わないことにする。それよりも、むしろこのことが戦術的見地からか、または明快な判定に極めて困難を伴うと考えられる。試合の流れ、経過に問題を限定して考えたいと思う。

例として、試合遅延戦術につい

ては、得点差を守るためとか、自チームの人数が相手よりも少ないときなどに、残り時間をなんとかうまく持ちこたえ、たえしのごうとする。このとき攻撃側は相手の反則を挑発するための反則行為を多くするようになる。そしてフリースローが与えられるとなれば時間を稼ぐことになり、しかも消極的プレーに加えて、タイムアウトでない中断時間をより長く延ばしてしまうことになる。我々はレフェリーに対し、今まで知り得た挑発的意味を持つ事例を紹介し、知覚的な判定判断のきっかけをつかむことに役立ててもらいたい。

以下にその諸様相を記す。

(a) GKがボールに対して積極的に動かないか、またはだらだらした態度をとる。

(b) 試合内容の組み立てを緩慢にする。

(c) 誇張、大げさなやり方または緩慢な交代動作。

(d) スローオフをわざとだらしなくやって修正されるようにしむける。

(e) 非生産的で何の効果もないとみられるハーフライン以前地域でのプレー。

(f) 負傷などをよそおって、ボールをキャッチ出来なくなったふりをするとか、ボールをとるのに身をかがめることが出来ないふりをする。

(g) フリースロー判定を誘発するような行為。

(h) 積極的にプレーしているようにみせかけるための回数の多いドリブル行為。

(i) シュートをするチャンスがあっても無視する。

レフェリーは攻撃側がもし次のようなことをしてもまどわされぬように自戒すべきである。

(a) 背中を向けなおして相手プレイヤーにつきあてたパスをしたり、

(b) 相手からちょっと触れられただけで倒れたり、

(c) ボールを持って、相手プレイヤーが複数でかたまっている状態の中へつっこみ、ホールディングされる。

反則を挑発するということ自体は反則ではない。しかしながら、レフェリーはこのような状況下でも醒めた眼をそなえているべきであり、挑発的プレーの小さな反則にも罰を与えるとともに、これが非スポーツ行為につながることを念頭におくべきである。大げさな誇張的なこれらの戦術的タイムウエーティングを阻止しなければならない。

次に、レフェリーにとって正しい判断をくだす上で最大の難点である攻撃側の反則についての例をあげてみることにする。

◎ ゴールエリア前の防御陣のすき間は攻撃側にとってはゴールへの出口といえる。攻プレイヤーはそこへ突っ込んで行くと防プレイヤーはそのすき間を閉じようとする。この場合どちらが反則したことになるか？ それは攻撃側のチャージングか、または防御側の突きあたり行為となるのか？（この場合は得点チャンスであるかどうかは問題ではない）罪の問題、責任の所在を問うならば誰れが、どちらがはじめにその突破口進入地点に居たかによって決められる。

防プレイヤーが衝突発生前にその地点に来ていたのであればチャージングである。もし防プレイヤーが若干遅れてもその突破口進入点に来てそしてなおその動きが待っていない状態であれば、彼らは攻撃側に対して横から突きあたったのである。反則の仕掛人と判断されることになる。まったくこの件について正しい判定をくだすことは至難事である。

◎ 他の状況について述べる。

サイド攻撃プレイヤーがボールを持ってゴールエリア上にとび込んだ。そのエリア前の内側から走って来た防プレイヤーも同様に斜めにゴールエリア内にとび込んだ。

レフェリーへの問いとして、

1 誰れが（どちらが）先にジャンプしたか？

2 同時にジャンプしたとすればどちらが先に衝突点に達したか？極めて稀な場合、これはチャージングである。しかしながら、防プレイヤーが先にジャンプしているか、または衝突点に達する前の同時ジャンプだったとも考えられる。いずれにせよ、これによってゴール方向へのジャンプを阻まれた。レフェリーはこの成り行き経過を、他の多くの事柄をも観察しながら、罰則適用を考えなければならない。

シュートをとめようとする防御行為も含めて考えると――。

ボールがプレイヤーの手からはなれていたかどうか？ 防御プレイヤーの動作が相手の身体に対して、はたらいたか？ もしその答えがイエスであればその危険度を確認してそれを段階的罰則適用に持っていくか、または粗暴行為として罰すべきである。誰れが誰れを危い目にあわせたのか？ このほかにゴールエリア浸入が先にあったかどうか？ ゴールへのシュートが完全に可能だったか（ジャ

ンプ方向、シュートをする腕の状態など）単純に7mスローを与えるだけですむかどうか？　判定をくだす上で衝突が起こる前のプレイヤーがどの程度まで危険防止を考えていたかも含めて考えるべきかどうか？　攻プレイヤーがシュートをするときは、シューターがゴールエリアの地面に着地する前にボールが彼の手から離していたかどうかも観察しなければならない。この例では、我々はレフェリーの観察任務課題がいかに多種多様にわたるかを知らされるのである。一瞬、寸秒の間に正しい判定がくだされなければならない。ナンセンスなレフェリー方法や個人的なスタンドプレーでは、このような事態に際して一層複雑なものにしてしまうことがある。もしこの陳述報告が諷刺とか否定的なものと受け取られるのであれば、我々は上記のような状況がまだ存在することを認め、必然的にレフェリーサイドには体制を整えるように指示しなければならない。近年いろいろな種類のトリックを使ってレフェリーの判定を自チームの意に沿うようにしむけようとする試みが年を追って増えつつある。このようなことは、適正な行為ではないにもかかわらずいまだにそれは禁じられていないし、それは依然としてレフェリーの仕事を極端に困難なものにしている。

◎　他の誤解を招く状況について

　攻プレイヤーが防プレイヤーに突きあたるという反則をした。その反則動作として防プレイヤーは、ただちに両腕で相手をホールディングしてしまった。ここで防プレイヤーが、もっとかしこくふるまうことが出来たのではないかという意見が出てくるのではないか？　例えばホールディングするのをちょっとの間待てば、レフェリーは状況をもっと明確に察知することが出来たであろう。しかし、これと反対に防プレイヤーは今までの経験でレフェリーがおそらくこの攻プレイヤーの反則を罰しないであろうことを知っているからそうするのである。基本的にレフェリーは、はじめに行なった反則行為を明確化するため、攻プレイヤーの反則については出来るだけ早く吹笛すべきである。その吹笛が遅れると、次に防プレイヤーの反則を呼びおこしプレイヤーや観衆にいらだちの念を抱かせる結果となる。攻防両チームのプレイヤーが入りまじぱて動きまわっているとき、両者が相次いで接近したり、衝突したりするが、これも多くの場合は防御側の反則判定となってしまう。攻プレイヤーが悪いとされることはほとんど稀である。さほど激しくない衝突では、攻撃側がボール保持を続ける限りアドバンテージルールが適用されると同時に、防御側にも段階罰適用は行われないと規定している。この状態は、判定に常に困難を伴うため、将来はレフェリーに対してこの件についての何らかの自由採量的基準が作られることになろう。

　次に防御側の行う不作法やトリック悪習について例をあげることにする。

　防御側がうしろにひっくりかえると同時に大げさな声を出すという挑発的演技を行い――それが、わずかな接触であっても――防御側の有利化をはかってレフェリーに影響を与えようとする。

　攻撃側の反則では前記のほかに頻繁に肩の部分での横方向へ突きあてる、ひねりねじりまわすといった感じで防御を妨害する。

　攻撃側がジャンプ中に膝を強く突き出すことについても言及しなければならない。相手に対して膝を前方に突き出すことは明らかに危険行為であり、当然相応の罰則を適用する。現在もなお頻繁にみられる、攻撃側プレイヤーがパスをした後ボールなしでおかす反則の見落とし、一定の動きのつづき、または後方へのジャンプの後で相手に突きあたるなどの場合レフェリーはしばしば反則を見落としてしまう。その理由としては、ボールがすでに別途にプレーされてしまっているし、ボールなしになった当該プレイヤーはもう直接シュートに関与する状態でなくなっているからである。

　これらのことは、いつもあるわけではない。攻撃側にはアドバンテージが適用されるからである。レフェリーにとっての決定的要素は防プレイヤーがその行動の自由をたもっているか、また攻プレイヤーのチャージングにより行動の自由がせばめられて妨害されるかという状態になってボールをキャッチもパスも出来なくなってしまうことである。

　攻撃プレイヤーがエンドラインに平行または対角線のように走っているとき、または横方向に入れかわったり位置を変えたりする防御プレイヤーの普通に前に出している腕にあたったりすることがあってもこれは攻撃側の反則ではない。

　ここでの討議対象問題としてゴールエリア内に立っている状態の防プレイヤーに対してボールを持った攻プレイヤーが、走ったり、ジャンプして突きあたることに関してレフェリーはどうすればよいか？　残念ながらこの状態は

近年とみに多くなりつつある。ボール保持の攻プレイヤーに対する防プレイヤーのルールに反した位置どりはすでに明快な判定がくだされるようになっている。防プレイヤーがゴールエリア内に立ってボール保持プレイヤーに対して利益を得ようとする行為は6—2Cにより7mスローで罰せられる。

しかしながら、すでに優先して重要な原則はプレイヤーの健康（安全）を守ることであり、この種のタイプの攻撃を非スポーツ的行為と認定することにレフェリーは注意関心をはらい攻チームロックに7mスローを与えることを無視してもかまわないから攻チームを罰するべきである。このような危険を容易に予測出来る行為意図は決してみのがしてはならずむしろそれを粗暴行為以下として格付けされるよう望むものである。

さらにレフェリーの正確な判定を必要とする攻撃側の挑発的態度についても研究の必要がある。防御側によっておかされる反則は当然レフェリーから吹笛されるが、攻撃側にとってこのとき与えられるフリースローで満足することはあるまい。このあと吹笛を無視してプレーの続行を望むようになりはせぬか？　このときの成り行きで攻撃側にただフリースローが与えられるよりも、もっと有利さを期待する成り行きが起こってくる。攻撃側にとってもっとも好都合なことは、反則吹笛後もボール保持で居ることである。歩数超過（オーバーステップ）により、反動的に過度な身体接触が往々にして防御プレイヤーをゴールエリア内に押しやるとか相手の安全を考えることなく、引きつづいてのシュート動作に移行してしまうことがあるが、こうなると防御プレイヤーは、はじめの反則をうわまわる反則をしてアンフェアーな対応を示すにいたり、より厳しい罰則適用（例えば7mスローや退場処分）が行われるようになり泥沼のようになる。こうなってもレフェリーは誤った罰量評価におちいらぬよう感性を働かせるようにならなければならない。

次にアドバンテージルール適用を考えることにする。私はすでに段階罰則適用に関連していくつかの話をした。

正しい——それはときとして幸運もあるが——アドバンテージルール運用は優秀なレフェリーによって解釈処理されている。若干のミスはあるとしても、それはいかに優秀なレフェリーペアとても2度や3度の間違ったアドバンテージ判定は試合のはじまりの時期には、しでかすものである。これは残念ながら事実であり、再三みられることである。この不運、幸運は最良の配慮、意図のもとでも反則が吹笛されず、そしてなおこの反則行為の被害者に何らかの利益もあたえられない状態となったときに発生する。また我々にとっても目立つ状態は、レフェリーの吹笛が早すぎること——我々は常日頃笛を口にくわえっぱなしして行動せぬように言っているにもかかわらず——それによって（笛を手に持つことで）アドバンテージ適用に合致することになるにもかかわらず——である。しかもアドバンテージが認められてもチームがボール保持であるのに、判定は単なるフリースローのみである。このような場合、笛が吹かれると大ていの防御側の戦術動作はすでにゆるんでしまい、そこにも明らかなアドバンテージ状態が生じることにも特別の注意をはらうべきである。およその場合14—9との関連でシュートをするときのアドバンテージ解釈の心情（配慮・情状の軽重）はいらだちを感じさせることになる。明らかな得点チャンスのときに何らかの反則が生行し、そしてレフェリーがアドバンテージを認めて試合を続行させるには次の主要な注意点に気を配らなければならない。それはシュートが完全にボールと自分自身のボディコントロールをたもっているかどうかである。もしコントロールを失っているならば、当然のこと7mスローが与えられる。すなわち、得点チャンスを改めて与えられるということである。もしコントロールがたもたれている状態であっても得点が成功しなかったり、相手GKの美技で阻止させられたり、となった時は攻プレイヤーにその上なお7mスローを与えるようなことがあってはならない。これは重複多重アドバンテージ解釈を認めないということである。このことについての間違った判定は、防御チームにとってこの上ないいらだちをおぼえる作用、影響となる。

次に寛大すぎるとりあつかいのステップ（オーバーステップに甘い）とゴールエリア内立入りについての反則場面でのアドバンテージ解釈についてとりあげてみると、いずれも大まかさがみられ、これも被害チーム側にいらだち立腹感の原因を作ってしまうことになる。

基本的に明らかな反則場面で反則なしのチームがボール保持状態であれば、その都度単なるフリースロー結果となるような吹笛はしてはならない。というのも、そのような吹笛は試合の流れをこわすものであり、アドバンテージ適用の敏速な対応を阻害することになるからである。

各地の記録から…

東北

全国高校選抜青森県二次予選

（1月7、8日／弘前市民体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

青森商 24－12 野辺地
青森商 32－9 山田
青森商 29－8 青森
野辺地 36－15 山田
野辺地 16－10 青森
青森 25－18 山田

〔順位〕①青森商②野辺地③青森④山田

〈女子〉

青森西 17－16 青森中央
青森西 27－4 三本木
青森西 11－10 野辺地
野辺地 19－11 青森中央
野辺地 21－10 三本木
青森中央 32－10 三本木

〔順位〕①青森西②野辺地③青森中央④三本木

全国高校選抜宮城県予選

（1月9～10日／県スポーツセンター）

〈男子〉

▼リーグ戦

仙台育英 24－11 仙台一
古川商 25－23 仙台二
仙台育英 34－11 仙台二
古川商 20－17 仙台一
仙台二 17－11 仙台一
古川商 19－17 仙台育英

〔順位〕①古川商②仙台育英③仙台二④仙台一

〈女子〉

▼リーグ戦

聖和 31－5 飯野川
宮城三女 14－8 朴沢女
聖和 29－7 朴沢女
宮城三女 20－13 飯野川
朴沢女 16－7 飯野川
聖和 20－10 宮城三女

〔順位〕①聖和②宮城三女③朴沢女④飯野川

関東

埼玉県高校新人大会

（10月10日～11月29日／浦和学院高、伊奈総合学園高ほか）

〈男子〉

▼県大会1回戦

浦和市立 23－17 三郷北
志木 19－13 川口
春日部 26－8 小松原
所沢北 16－11 春日部東
城北埼玉 22－15 上尾南
上尾東 31－14 越谷南
川口東 14－11 朝霞
庄和 20－20 北本
3PTC

▼2回戦

川口工 25－15 浦和市立
埼玉栄 28－21 草加
西武台 32－8 浦和工
城西川越 20－12 志木
浦和西 23－18 春日部
農大三 27－14 熊谷
浦和南 26－17 草加東
浦和実 23－10 所沢北
浦和学院 44－8 城北埼玉
県坂戸 29－8 鴻巣
春日部工 28－17 戸田
川口北 22－14 上尾東
川口青陵 26－7 川口東
伊奈学園 35－20 岩槻
筑波大坂戸 33－21 科学技術
大宮南 26－9 庄和

▼3回戦

埼玉栄 18－15 川口工
西武台 25－6 城西川越
浦和西 28－15 農大三
浦和実 19－10 浦和南
浦和学院 21－11 県坂戸
川口北 16－12 春日部工
伊奈学園 17－16 川口青陵
大宮南 15－10 筑波大坂戸

▼準決勝リーグI組

浦和実 19－9 西武台
浦和実 25－9 埼玉栄
浦和実 30－15 浦和西
西武台 14－10 埼玉栄
西武台 14－10 浦和西
埼玉栄 17－14 浦和西

〔順位〕①浦和実②西武台③埼玉栄④浦和西

▼準決勝リーグII組

浦和学院 18－14 川口北
浦和学院 17－10 大宮南
浦和学院 24－8 伊奈学園
川口北 19－11 大宮南
川口北 19－14 伊奈学園
大宮南 14－13 伊奈学園

〔順位〕①浦和学院②川口北③大宮南④伊奈学園

▼7・8位決定戦

浦和西 23－16 伊奈学園

▼5・6位決定戦

埼玉栄 19－9 大宮南

▼3・4位決定戦

川口北 17－10 西武台

▼決勝

浦和実 16（9－4、7－3）7 浦和学院

※浦和実は2年連続3度目の優勝

〈女子〉

▼県大会1回戦

春日部東 30－15 大宮北
草加東 34－6 上尾南
浦和西 22－14 狭山
春日部女 15－13 川口東
浦和商 13－1 北本
大宮南 9－8 大宮武蔵野
戸田 17－13 幸手商
浦和南 20－14 庄和

▼2回戦

川口青陵 35－2 春日部東
春日部共栄 22－6 秋草学園
浦和学院 8－3 和光
川口女 20－9 草加東
上尾東 30－8 浦和西
八潮 17－9 浦和市立
筑波大坂戸 30－3 深谷一
羽生一 20－3 春日部女
三郷北 32－1 浦和商
伊奈学園 25－3 本庄女
朝霞 23－7 草加
熊谷女 8－5 大宮南
川口北 22－6 戸田
行田女 19－6 志木
八潮南 16－16 小松原女
2PTC1
浦和実 22－12 浦和南

▼3回戦

川口青陵 30－7 春日部共栄
浦和学院 21－12 川口女
上尾東 20－14 八潮
羽生一 29－16 筑波大坂戸
三郷北 16－7 伊奈学園
朝霞 21－19 熊谷女
川口北 22－4 行田女
浦和実 46－13 八潮南

▼準決勝リーグI組

川口青陵 21－12 上尾東
川口青陵 28－5 浦和学院
川口青陵 30－11 羽生一
上尾東 15－9 浦和学院
上尾東 18－12 羽生一
浦和学院 20－17 羽生一

〔順位〕①川口青陵②上尾東③浦和学院④羽生一

▼準決勝リーグII組

浦和実 20－13 三郷北
浦和実 29－6 川口北

浦和実 31－8 朝霞
三郷北 22－9 川口北
三郷北 35－11 朝霞
川口北 20－9 朝霞
〔順位〕①浦和実②三郷北③川口北④朝霞
▼7・8位決定戦
朝霞 22－21 羽生一
▼5・6位決定戦
川口北 14－8 浦和学院
▼3・4位決定戦
三郷北 26－8 上尾東
▼決勝
浦和実 20〔13－3 / 7－11〕14 川口青陵
※浦和実は3年ぶり2度目の優勝

千葉県高校新人大会 ブロック予選

〔日程・場所不明〕
▼第1ブロック
〈男子〉
市原 13－13 拓大紅陵
木更津 20－9 鶴舞商
房総学園 17－15 京葉
拓大紅陵 29－8 鶴舞商
市原 21－17 京葉
房総学園 22－11 木更津
市原 22－4 鶴舞商
拓大紅陵 20－16 京葉
〔順位〕①房総学園②市原③木更津④拓大紅陵⑤京葉⑥鶴舞商
〈女子〉
御宿家政 39－2 東金女
〔順位〕①御宿家政②東金女
▼第2ブロック
〈男子〉
佐原 28－5 四街道
東京学館 34－1 秀明八千代
八千代 34－5 四街道
佐原 13－12 東京学館
八千代 33－0 秀明八千代
東京学館 29－7 四街道
佐原 29－2 秀明八千代
八千代 17－12 東京学館
四街道 24－6 秀明八千代
八千代 20－10 佐原
〔順位〕①八千代②佐原③東京学館④四街道⑤秀明八千代
〈女子〉
佐原女 38－4 四街道
佐原 36－7 四街道
佐原女 17－8 佐原
佐原 33－6 四街道
佐原女 34－6 四街道
佐原 11－11 佐原女
〔順位〕①佐原女②佐原③四街道
▼第3ブロック
〈男子〉
士気 13－10 千葉南
若松 37－10 生浜
泉 13－11 千葉南
士気 26－7 生浜
若松 26－12 泉
泉 26－14 生浜
若松 28－6 千葉南
泉 20－15 士気
千葉南 19－15 生浜
若松 25－12 士気
〔順位〕①若松②泉③士気④千葉南⑤生浜
〈女子〉
明徳 6－2 生浜
若松 14－8 士気
明徳 10－9 泉
若松 13－5 生浜
泉 16－8 士気
泉 12－3 生浜
明徳 14－13 士気
若松 10－7 泉
士気 15－3 生浜
明徳 10－7 若松
〔順位〕①明徳②若松③泉④士気⑤生浜
▼第4ブロック
〈男子〉
○Aブロック
幕張北 18－13 渋谷幕張
幕張北 15－10 船橋旭
船橋旭 14－12 渋谷幕張
〔順位〕①幕張北②船橋旭③渋谷幕張
○Bブロック
船橋東 15－10 船橋法典
船橋西 16－10 鎌ヶ谷
船橋西 11－8 船橋東
船橋法典 13－6 鎌ヶ谷
船橋東 17－12 鎌ヶ谷
船橋西 19－5 船橋法典
〔順位〕①船橋西②船橋東③船橋法典④鎌ヶ谷
▼決定戦
船橋東 18－5 渋谷幕張
船橋旭 26－12 船橋法典
▼3位決定戦
船橋東 14－9 船橋旭
▼決勝
船橋西 19－15 幕張北
〈女子〉
東邦 28－9 渋谷幕張
幕張北 12－5 若葉看護
幕張北 25－8 渋谷幕張
東邦 15－4 若葉看護
渋谷幕張 15－4 若葉看護
東邦 12－9 幕張北
〔順位〕①東邦②幕張北③渋谷幕張④若葉看護
▼第5ブロック
〈男子〉
二松沼南 28－7 我孫子
我孫子 24－11 県沼南
県沼南 24－9 沼南高柳
柏 21－15 沼南高柳
二松沼南 35－6 柏
二松沼南 42－2 沼南高柳
柏 11－10 県沼南
二松沼南 25－9 県沼南
我孫子 23－7 沼南高柳
我孫子 22－10 柏
〔順位〕①二松沼南②我孫子③柏④県沼南⑤沼南高柳
▼第6ブロック
〈男子〉
柏南 18－5 流山中央
柏南 27－11 柏陵
柏南 26－5 芝浦工大
柏南 17－7 流山東
柏南 15－4 東葛飾
柏陵 27－21 芝浦工大
柏陵 24－11 流山東
柏陵 23－17 東葛飾
流山中央 22－15 柏陵
流山中央 35－9 芝浦工大
流山中央 37－17 流山東

流山中央 22-19 東葛飾
東葛飾 18-16 芝浦工大
東葛飾 29-11 流山東
芝浦工大 16-16 流山東
〔順位〕①柏南②流山中央③柏陵④東葛飾⑤流山東⑥芝浦工大

〈女子〉
柏南 13-10 東葛飾
東葛飾 12-4 流山中央
柏南 10-5 流山中央
〔順位〕①柏南②東葛飾③流山中央

▼第7ブロック
〈男子〉
六実 33-9 市立松戸
六実 30-15 小金
六実 16-16 国府台
国府台 33-11 市立松戸
国府台 23-16 小金
小金 23-13 市立松戸
〔順位〕①六実②国府台③小金④市立松戸

〈女子〉
聖徳 19-19 秋山
聖徳 12-10 専大松戸
聖徳 25-3 六実
秋山 13-8 専大松戸
秋山 16-5 六実
専大松戸 21-3 六実
〔順位〕①聖徳②秋山③専大松戸④六実

▼第8ブロック
〈男子〉
東京学館浦安 22-12 浦安南
東京学館浦安 25-11 市川西
東京学館浦安 24-11 国分
市川西 10-8 浦安南
市川西 13-12 国分
浦安南 17-12 国分
〔順位〕①東京学館浦安②市川西③浦安南④国分

千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月15、21、22日／三井石油化学体育館）

〈一部リーグ〉
三井石化 32-24 コスモ石油
三井石化 31-25 海自下総
コスモ石油 33-31 海自下総
コスモ石油 28-19 出光千葉
出光千葉 24-23 三井石化
海自下総 41-23 出光千葉
三井石化 37-12 東京電力
コスモ石油 41-15 東京電力
三井石化 棄権 海自木補
コスモ石油 棄権 海自木補
海自下総 棄権 海自木補
出光千葉 棄権 海自木補
海自木補 棄権 東京電力
海自下総 棄権 東京電力
出光千葉 棄権 東京電力
〔順位〕①三井石化②コスモ石油③海自下総④出光千葉⑤海自木補所⑥東京電力

〈二部リーグ〉
日産石化 25-7 海自館山
東京ガス 17-14 海自館山
日産石化 25-17 東京ガス
〔順位〕①日産石化②東京ガス③海自館山

▼1、2部入替戦
海自館山
東京電力棄権の為。

第42回藤沢市民総体

（12月13、19、20日／秋葉台文化体育館、藤沢北高体育館）

〈一般の部〉
▼1回戦
藤沢北ク 24-18 北陵ク
七里ヶ浜ク 23-15 にっさかク
金井ク 33-11 湘南ク
藤沢ク 20-18 鎌学ク
▼2回戦
和泉ク 25-14 藤沢北ク
金井ク 18-10 大清水ク
相模ク 22-16 藤沢ク
横浜商大ク 不戦勝 七里ヶ浜ク
▼準決勝
和泉ク 23-13 横浜商大ク
金井ク 18-14 相模ク
▼決勝
和泉ク 24（12-10、12-11）21 金井ク

〈高校男子〉
▼1回戦
大清水 17-7 鶴嶺
鎌倉学園 25-10 県鎌倉
▼2回戦
藤沢北 21-11 大清水
藤沢西 14-12 茅ヶ崎北陵
七里ヶ浜 15-15 相模工大（3 PTC 2）
鎌倉学園 14-12 湘南
▼準決勝
藤沢北 13-11 藤沢西
鎌倉学園 21-13 七里ヶ浜
▼決勝
藤沢北 22（10-6、12-9）15 鎌倉学園

〈高校女子〉
▼1回戦
湘南 10-6 茅ヶ崎北陵
七里ヶ浜 10-10 県鎌倉（3 PTC 0）
藤沢西 10-4 相模工大
藤沢北 15-7 鶴嶺
▼準決勝
湘南 15-7 七里ヶ浜
藤沢北 15-7 藤沢西
▼決勝
湘南 9（5-4、4-2）6 藤沢北

〈中学〉
▼リーグ戦
善行 6-5 藤ヶ岡
藤沢一 13-4 藤ヶ岡
藤沢一 15-10 善行
〔順位〕①藤沢一②善行③藤ヶ岡

昌文女子高招待 日・韓高校歓交流試合

（12月23、25日／東女体大体育館）

昌文女 23（13-10、10-8）18 藤村女新人
昌文女 23（9-5、14-9）14 藤村女3年
名短付 19（13-5、6-4）9 聖和学園
昭和学院 22（12-9、10-11）20 昌文女
聖和学園 17（10-6、7-7）13 藤村女

昭和学院 13（6-6, 7-7）13 名短付
昌文女 27（15-8, 12-9）17 藤村女
昭和学院 19（11-9, 8-7）16 聖和学園
名短付 19（11-5, 8-7）12 藤村女
昌文女 20（12-1, 8-9）10 聖和学園
昭和学院 12（8-5, 4-4）9 藤村女
昌文女 24（13-7, 11-9）16 名短付

千葉県高校新人大会

（1月9、10、15日／市川市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
船橋東 10-6 柏陵
市原 12-7 市川西
佐原 18-11 国府台
我孫子 15-9 泉
幕張北 20-19 流山中央

▼2回戦
東邦 29-10 船橋東
学館浦安 20-8 市原
柏南 11-11 3PTC1 松戸六実
佐原 10-10 3PTC2 二松沼南
八千代 16-7 我孫子
房総学園 19-13 船橋西
若松 28-16 木更津
市川 25-12 幕張北

▼3回戦
東邦 26-14 学館浦安
佐原 13-9 柏南
八千代 27-13 房総学園
市川 18-8 若松

▼準決勝
東邦 29-13 佐原
市川 16-15 八千代

▼決勝
市川 18（9-6, 9-9）15 東邦

※市川は4年連続8回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
柏南 8-6 幕張北
佐原女 23-5 専大松戸
若松 20-13 聖徳
明徳 9-8 松戸秋山
東邦 16-8 泉
御宿家政 14-2 佐原
和洋女 22-5 東葛飾

▼2回戦
昭和学院 20-5 柏南
佐原女 19-8 若松
東邦 21-7 明徳
和洋女 14-7 御宿家政

▼準決勝
昭和学院 28-3 佐原女
和洋女 22-7 東邦

▼決勝
昭和学院 17（6-4, 11-3）7 和洋女

※昭和学院は2年連続19回目の優勝。

東海

全国高校選抜岐阜県予選

（12月25、26日／不明）

〈男子〉

▼1回戦
斐太 31-15 可児
県岐阜商 34-10 大垣工
岐阜南 24-18 美濃加茂
岐阜西工 12-8 市岐阜商

▼2回戦
大垣農 25-24 斐太
県岐阜商 49-10 中京商
岐阜南 19-18 大垣南
岐阜西工 24-23 岐阜北

▼準決勝
県岐阜商 26-17 大垣農
岐阜西工 22-10 岐阜南

▼3位決定戦
岐阜南 25-18 大垣農

▼3位決定戦
岐阜南 25-18 大垣農

▼決勝
県岐阜商 16（8-5, 8-6）11 岐阜西工

〈女子〉

▼1回戦
県岐阜商 22-12 池田
大垣南 19-11 瑞浪
高山 22-9 本巣

▼2回戦
県岐阜商 20-6 各務原
斐太 28-8 大垣南
高山 31-11 岐山
養老女商 15-9 高山

▼準決勝
斐太 19-7 県岐阜商
養老女商 15-9 高山

▼3位決定戦
高山 21-9 県岐阜商

▼決勝
養老女商 10（7-3, 3-4）7 斐太

全国高校選抜三重県予選

（1月9、10、15、17日／四日市緑地体育館、四日市霞ヶ浦体育館）

〈男子〉

▼1回戦
亀山 34-1 川越
尾鷲 26-9 名張西
四日市 26-5 四日市四郷
津工 30-7 上野工
津 20-11 高田

▼2回戦
四日市工 29-15 亀山
桑名工 14-12 桑名北
津東 19-4 四日市中央工
尾鷲 25-17 津西
四日市 13-12 桑名西
四日市西 17-8 津工
四日市南 21-7 海星
桑名 22-16 津

▼3回戦
四日市工 33-5 桑名工
津東 25-9 尾鷲
四日市 17-12 四日市西
桑名 24-14 四日市南

▼準決勝
四日市工 26-8 津東

桑名 24－14 四日市
▼3位決定戦
四日市 17－16 津東
▼決勝
桑名 15（5－7、10－6）13 四日市工

〈女子〉
▼1回戦
暁 45－1 津
四日市 25－5 桑名西
尾鷲 10－7 桑名
四日市南 21－8 四日市四郷
四日市西 14－12 亀山
名張西 46－3 松阪女
津東 24－6 津西
四日市商 25－4 川越
▼2回戦
暁 21－12 四日市
四日市南 32－2 尾鷲
名張西 14－13 四日市西
四日市商 15－4 津東
▼準決勝
暁 28－2 四日市南
四日市商 22－4 名張西
▼3位決定戦
四日市南 13－8 名張西
▼決勝
暁 18（9－4、9－5）9 四日市商

静岡県高校新人大会

（1月23、24、31日／　）

〈男子〉
▼1回戦
清水東 17－4 修善寺工
富士 14－4 森
浜松湖東 10－6 沼津工
御殿場南 20－6 静岡工
オイスカ 14－7 土肥
二俣 23－7 御殿場
静岡南 28－5 吉原商
星陵 22－1 気賀
伊豆中央 20－16 静岡西
静岡東 14－13 小山
静清工 21－5 天竜林
▼2回戦
静岡農 19－11 清水東
富士 21－7 浜松湖東
浜松城北工 16－10 御殿場南
沼津東 23－4 オイスカ
清水市商 18－16 二俣
星陵 16－11 静岡南
静岡東 12－11 伊豆中央
浜松南 21－8 静清工
▼3回戦
静岡農 29－14 富士
沼津東 19－13 浜松城北工
星陵 24－13 清水市商
浜松南 14－13 静岡東
▼準決勝
静岡農 23－14 沼津東
浜松南 14－9 星陵
▼決勝
静岡農 23（12－6、11－10）16 浜松南

〈女子〉
▼1回戦
小山 11－7 清水東
清水市商 27－5 土肥
▼2回戦
清水西 32－6 小山
加藤学園 19－9 清水女
富士宮東 7－4 藤枝西
気賀 12－0 富士東
清水市商 13－12 静岡城北
御殿場 14－6 二俣
静岡農 19－2 吉原
富士見 7－7（2 PTC 1）浜松南
▼3回戦
清水西 34－4 加藤学園
気賀 12－8 富士宮東
清水市商 30－3 御殿場
静岡農 12－9 富士見
▼準決勝
清水西 18－9 気賀
静岡農 10－8 清水市商
▼決勝
清水西 17（8－5、9－4）9 静岡農

中国

全国高校選抜鳥取県予選

（1月15～16日／倉吉体育文化会館）

〈男子〉
▼1回戦
米子西 10－9 倉吉東
倉吉工 20－12 米子北
米子東 16－6 境港工
▼準決勝
境 21－9 米子西
米子東 15－14 倉吉工
▼決勝
境 15（8－4、7－2）6 米子東

〈女子〉
▼1回戦
境 34－7 米子西
米子北 29－3 倉吉西
米子南商 33－4 倉吉産
米子東 23－1 倉吉東
▼準決勝
境 17－5 米子北
米子南商 18－14 米子東
▼決勝
境 37（18－9、19－6）15 米子南商

岡山県高校室内選手権

（1月23、24日／県体育館）

〈男子〉
▼1回戦
総社 30－6 邑久
水島工 14－12 操山
津工 18－14 一宮
天城 18－9 吉備
児島 17－15 光南
東岡山工 18－10 倉敷商
倉敷工 9－7 倉敷南
岡山工 28－4 矢掛
▼2回戦
総社 25－12 水島工
天城 34－11 津工
東岡山工 16－6 児島
倉敷工 11－6 岡山工
▼準決勝
天城 15－14 総社
倉敷工 6－4 東岡山工
▼3位決定戦
総社 15－11 東岡山工
▼決勝

倉敷工 12（5―5、7―5）10 天城
※倉敷工は9年ぶり3回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
備前東 12―7 真備
古城池 11―2 一宮
▼2回戦
玉野光南 34―5 備前東
児島 18―7 倉敷南
総社 11―8 倉敷商
西大寺 22―8 古城池
▼準決勝
玉野光南 18―8 児島
西大寺 17―7 総社
▼3位決定戦
児島 16―5 総社
▼決勝
玉野光南 14（5―5、9―6）11 西大寺
※玉野光南は2年連続2回目の優勝。

四国

香川県中学新人大会

（1月6、7日／県体育館）
〈男子〉
▼1回戦
木太 25―6 桜町
香川東 18―18 紫雲
4 PTC 3
古商松 31―7 玉藻
▼2回戦
香川一 21―7 木太

香川東 17―9 勝賀
綾南 20―2 光洋
古高松 19―11 山田
▼準決勝
香川一 28―10 香川東
綾南 23―21 古高松
▼決勝
香川一 21（9―5、12―3）8 綾南
※香川一は2年連続3回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
木太 10―5 光洋
香川一 棄権 綾南
▼2回戦
香川東 6―5 木太
山田 23―6 桜町
塩江 12―9 紫雲
香川一 11―6 古高松
▼準決勝
山田 24―10 香川東
香川一 19―9 塩江
▼決勝
山田 16（10―8、6―6）14 香川一
※山田は5回目の優勝。

九州

第16回九州高校宮崎県二次予選会

（12月26～27日／都城体育文化センター）
〈男子〉
▼1回戦

宮崎西 30―10 延岡
宮崎第一 13―12 都城工
宮崎工 18―12 泉ヶ丘
宮崎南 29―14 宮崎北
▼準決勝
宮崎西 24―21 宮崎第一
宮崎南 18―17 宮崎工
▼決勝
宮崎南 25（13―10、12―10）20 宮崎西
※宮崎南は5年ぶり2回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
本庄 24―5 宮崎女
宮崎西 12―11 小林
宮崎商 22―18 延岡東
小林商 23―5 延岡商
▼準決勝
本庄 15―9 宮崎西
小林商 23―8 宮崎商
▼決勝
本庄 23（13―10、10―11）21 小林商
※本庄は2年連続4回目の優勝。

第3回宮崎県中学生選抜大会

（12月26～27日／都城体育文化センター）
〈男子〉
▼リーグ戦
山田 28―13 田野
小林 18―14 田野
山田 27―11 宮崎西
小林 18―13 宮崎西
山田 29―10 小林
※山田は2年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉
▼リーグ戦
北川 18―1 小林
北川 34―6 高鍋西
山田 10―6 小林
山田 16―8 高鍋西
北川 26―5 山田
※北川は2年連続2回目の優勝。

第23回宮崎県高体連新人大会

（日程、場所不明）
〈男子〉
▼予選リーグ
○A組
都城工 28―12 宮崎中央
都城工 18―14 都城西
都城西 28―8 宮崎中央
○B組
泉ヶ丘 29―4 日向工
宮崎南 39―7 日向工
宮崎南 17―13 泉ヶ丘
○C組
宮崎第一 27―24 宮崎北
宮崎北 25―13 日南
宮崎第一 31―13 日南
○D組
宮崎西 44―4 妻
西都商 26―8 妻
宮崎西 41―19 西都商
○E組
宮崎工 26―5 都城商
小林 12―10 都城商
宮崎工 27―9 小林
○F組
小林工 33―6 日南工
延岡 19―9 日南工

延岡 19－19 小林工

▼準決勝リーグ

○A組

都城工 28－14 延岡

延岡 18－16 西都商

都城工 20－12 西都商

○B組

宮崎南 24－13 小林

宮崎北 11－7 小林

宮崎南 26－12 宮崎北

○C組

宮崎第一 19－18 小林工

泉ヶ丘 18－17 小林工

宮崎第一 24－18 泉ヶ丘

○D組

宮崎西 9－9 宮崎工

宮崎西 20－8 都城西

宮崎工 23－15 都城西

▼準々決勝

宮崎第一 23－12 延岡

泉ヶ丘 20－8 都城工

宮崎南 13－12 宮崎工

宮崎西 16－12 宮崎北

▼準決勝

宮崎南 24－13 宮崎第一

宮崎西 15－14 泉ヶ丘

▼決勝

宮崎西 17（8－4 9－6）10 宮崎南

※宮崎西は初優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○A組

本庄 44－4 妻

本庄 30－12 宮崎商

宮崎商 31－8 妻

○B組

小林商 48－8 宮崎中央

宮崎女 25－9 宮崎中央

小林商 30－13 宮崎女

○C組

延岡商 16－15 延岡

小林 18－15 延岡商

小林 27－10 延岡

○D組

延岡東 41－9 日南振徳

宮崎西 36－4 日南振徳

延岡東 21－7 西都商

宮崎西 22－3 西都商

▼準決勝リーグ

○A組

本庄 23－7 宮崎女

宮崎西 16－16 宮崎女

本庄 23－1 延岡商

宮崎西 16－3 延岡商

本庄 10－9 宮崎西

延岡商 7－7 宮崎女

○B組

小林商 17－6 宮崎商

小林 21－14 宮崎商

延岡東 19－17 小林

小林商 24－14 延岡東

延岡東 22－11 宮崎商

小林商 16－8 小林

▼準決勝

本庄 23－7 延岡東

小林商 13－10 宮崎西

▼決勝

本庄 13（7－5 6－5）10 小林商

※本庄は2年連続4回目の優勝。

日本協会だより

１月度常務理事会議事録

〔日　時〕昭和63年１月９日（土）　午後２時30分～
〔場　所〕岸記念体育会館　401号会議室
〔出席者〕安藤専務理事、川上、大野、伊藤、北川、阿部、西村、塩川、各常務理事、事務局関口、斉藤
〔議　題〕

1　国際関係について、
*ＵＳＡカップ（女子）はナショナルスタッフ決定との関連があり残念ながら今回は参加出来ない。
*男子ナショナル欧州遠征（３月25日～４月10日）は日程変更はあると思われるがアイスランド他の了解を得られた。
*スイストヨタ来日については日本国内（東京、名古屋、九州地区）の日程調整の段階に入った。
*女性トレーナーコーチ研修会（3/28～4/3、オーストリア）は北川氏が希望者を募る。
*テラモ（イタリア）来日希望については永年日本チームがお世話になっているので受け入れなければならない。昭和64年３月下旬～４月の予定なので昭和64年度の事業となる。尚、総員30名の予定。

2　男子ナショナル海外遠征役員について
欧州遠征及びユーゴカップがあるが、役員については次回決定とし、個人負担金はどちらかに体協の補助金が付くと思われるので、二つの遠征をリンクして考える。

3　スポーツフェアー、親善試合について
アイスランドより来日を受諾する旨正式回答があった。５月４日、５日の両日、名古屋及び大阪で試合を計画中。

5　全国小学生大会について
現在参加確定は男女とも６県程度である。特に近畿圏については参加を強くお願いする。

6　国体関連事項について
前に評議員、各県協会に送付済み資料につき説明された。

7　63年度予算案修正について
原案としては大きな修正点は無いと思われるが若干の修正は、専務理事、財務、総務担当者に一任して欲しいとの発言があり、全員これを了承した。

8　その他
*50年誌の最終編集委員会が開かれた。次回は60年誌を発行する意向である。また、毎年誌（year book）作成が議題にされた、との報告があった。

１月度（第２回）常務理事会議事録

〔日　時〕昭和63年１月30日（土）　午後２時30分～
〔場　所〕岸記念体育館　402号会議室
〔出席者〕荒川副会長、安藤専務理事、川上、大野、北川、阿部、大塚、塩川、各常務理事、事務局関口、斉藤

荒川副会長挨拶

新年にあたり日本協会のあるべき姿を考えると、事務局員の教育並びに業務指導と共に事務所は事務局員の仕事の場である事を役員各位が認識し、仕事に差し支え無きよう配慮されたい。

評議員を始め各氏より協会の資金状態について問い合わせがある。予算の執行については財務担当はもとより総務もあわせチェックし、健全財政確立のため各担当常務理事は一致協力して欲しい。

常務理事は各担当職責を十分果たされるよう努力され、公私を混同することの無いよう常に心がけてほしい。

〔昭和63年度予算及び事業計画について〕

最終的検討が為され原案とすることで了承された。

〔その他〕

1　スポーツフェアーについて
アイスランド招待は実施の段階に入り近日中に川上氏と東京協会担当者との打合せを行いたい。

2　ＩＨＦルールについて
改正は本年度は見送られる予定である。日本協会は当初予定どうり現在のルールを来年度も施行する。

3　小学生ルールについて
大塚審判担当より別紙にて説明があり了承された。

4　評議員会議事録について
久保評議員に署名をお願いしてあるが、内容につき事務局より説明が為された。

5　カラーボールについて
現在使用されているボールは適法であると認められる。

6　ヨーロッパ遠征（3/24～4/9）について
安藤専務理事に一任する。

7　女子ナショナル監督について
樫塚氏の了解をほぼ得られた。

8　クラブ関係について
運営上の問題（大会開催地など）があるので、それらについて分後、検討を重ねて行く事にする。

お詫び

本誌２月号（270号）において、表２（株式会社日立製作所）、表３（株式会社アシックス）の広告原稿を、当方の手違いで旧原稿を使用してしまいました。ご迷惑をおかけいたしました両社に対し、深くお詫び申し上げると共に、読者のみなさまにお詫び、訂正させていただきます。



5人以上のグループでこの保険に加入できます。

保険料(年額1人あたり)

■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下の子どものグループ	**350円**
■文化活動、奉仕活動のグループおよび老人のグループ(ゲートボールなど)	**600円**
■ママさんバレーなどの地域スポーツグループ、高校の運動部および大学・会社などのスポーツ同好会など	**1,050円**

注:ほかに学生連盟、実業団連盟に所属する団体の加入も扱っています。

補償の内容

傷害保険	死亡・後遺障害 入院(1日につき) 通院(1日につき)	最高	1,200万円 3,800円 1,200円
賠償責任保険	支払限度額	対人 対物	5,000万円 100万円

対象となる事故

■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間

昭和63年4月1日より翌年3月31日まで(申込受付は3月から)

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ

スポーツ安全協会各都道府県支部(主として教育委員会保健体育課および体育協会)、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

(財)スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館 TEL(03)481-2431(代表)

asics TIGER®



アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

百個のグリップ力。アウトドア専用。

マルチコンソールが、グラウンドを確実にグリップする。初のアウトドアハンドボールシューズ、スカイハンド®SL。

アウターソールには、片足に100個以上のポイントを独特の形状で配置。アウトドアのグラウンドコンディションに確実に応えるハンドボールシューズの登場です。側面には傾斜をつけ、倒れ込みシュートを打ちやすく。かかと部を拡げて着地衝撃を吸収しやすい形状に。大空での空中戦を、十二分に意識した、初めてのハンドボールシューズです。

品番 THH501 品名 スカイハンド®SL
メーカー希望小売価格 ¥9,200
カラー/ホワイト×レッド
ホワイト×ネイビーブルー
サイズ/22.5〜28.0cm

株式会社 アシックス

●お問い合わせは株式会社アシックス消費者相談課までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 ☎(078)303-2233(専用)(078)303-3333(大代)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 ☎(03)624-1814(専用)(03)624-2221(大代) ■本文中Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二七一号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和六十三年二月二十五日 印刷
昭和六十三年三月一日 発行
東京都渋[illegible]南一―一―一
電話 代表（四八一）二三六一
振替 東京 六―九八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）